

上田 勉

【3・11 と震災遺構 その 1】日和幼稚園 5 人の園児がスクールバスの中で焼死する

今年は 3・11 東日本大震災と福島第一原発事故から 13 年になります。これからは震災遺構を通じて、当時のことを思い出すシリーズにしたいと思います。

宮城県石巻市門脇地区の北側に日和山という小高い丘があります。3・11 の時は、門脇地区は津波の後で火事になりました。多くの住民が日和山へ避難して、助かりました。門脇小学校の生徒達も、日和山へ避難して、全員が助かりました。

しかし、日和山にあった日和幼稚園では、園児を親に引き渡すために、スクールバスは山から海の方へ向かいました。それぞれの場所で園児を親に引き渡して、バスは門脇小学校で停車しました。バスには 5 人の園児が乗っていました。幼稚園の教員 2 人がバスに追いつきましたが、園児は連れ戻しませんでした。

バスはその後日和幼稚園の近くまで来て、津波にあったようです。「運転手は（奥さんと園児 5 人をバスに残して）、被災を免れ無事に幼稚園へ戻ったものの、被災場所も伝えず、又、園長はじめ先生達も、被災園児の居場所すら運転手に聞く事すらせず、残念ながら救助活動は行われなかった。園児の被災場所からは、夜中まで子ども達の「助けて～助けて～」の声が聞こえていました。津波が押し寄せてから 10 時間後に、子供達が居た場所は火災が発生し、子ども達はこの世を旅立って逝きました。」

「私たちの子どもたちは皆、想像を絶する姿でした。被災現場では津波が押し寄せた後に火災が起きました。子ども達は真っ黒焦げで、下半身はすっかりなく、手も肘から下がなく、変わり果てた姿で発見されました。抱きしめると壊れてしまうので、抱きしめることもできません。

私たち親は子ども達の本当の死因さえもわかりません。被災現場周辺では子ども達の声が夜中まで聞こえていたと近隣住人から聞いた時には、どうかどうか熱い思いだけはしていない様にと今でも願いやみません。そしてこの震災においても、たくさん子ども達が犠牲になりました。このことを一つも無駄にしないよう、これから子供達をどう守り続けていくのか、今だからこそしっかりと考えて直してもらいたいと考えます。」

「幼稚園は一刻も早く（園児を）親元に返そうと思ったようですが、早く親元に返したいのと子ども達を危険にさらすことは全く別物で絶対に高い所から低い所へ行く行為はあってはいけない事でした。私たち遺族は幼稚園にただ当たり前のことを当たり前にしてほしかったのです。子ども達を落ち着かせ、守り、避難してほしかった。事故を招いた原因は、日頃からのずさんな体制が招いた結果だと私たち遺族は思っております。子ども達の命を、私たち親はその場に居る先生方に託すしかできないのです。子どももそれに従う事しか出来ません。大人の判断一つで、守れるはずの命も守れない命になることはあってはならないはずです。私たち遺族は、無理難題を言っているのではありません。津波や火の中に飛び込んでまで助けて欲しいのではなく、ただただそれ以前の行動をとってほしいのです。どうかど

うか、教育現場や教育現場に居る方はどんな状況でも子どもの命を最優先に考え、行動してほしいのです。」（「子どもの安全を考える日和幼稚園遺族有志の会」パンフレット）



亡くなった日和幼稚園の園児の親たちが焼け焦げた送迎バスを見つけたのは、震災の 3 日後だった=2011 年 3 月 14 日、宮城県石巻市、西尾邦明撮影（朝日新聞デジタル記事 2022 年 9 月 28 日 5 時 00 分）



亡くなった佐藤愛梨さんの遺品のクレヨンケースとシューズ（焼け焦げている）（宮城県石巻市 MEET）（2024 年 2 月 26 日撮影）